

(活動発表標題)

里山にT (定) ターン

里山の自然と人々の織りなすゆたかさを求めて

(発表概要)

1. 設立の背景

- 安養寺薪割り倶楽部は、越前市安養寺町で薪ストーブが好きな人が集まって共同で薪づくりをしようということから H25 年に 6 人でスタートした。
- 現在のメンバーは県外からの I ターン者 3 名を含む 10 人 (平均年齢 65 歳)。
- 活動のスローガンは「里山に T (定) ターン」。
 - 「T (定) ターン」とは、「定年をきっかけに暮らし方を積極的に変える」という意味の造語

2. 活動の概要

- 活動の目的は「里山のゆたかさを再発見し森林資源の活用を通して、自分たちの暮らしを楽しく元気にするコト」。
- 薪、ホダ木の生産はもちろん、鎮守の森づくりや、小学生の自然教室を開催し、地域に新たな交流を生み出している。
- 小中学生の通学路に面する山ぎわを地域の人と協働で整備するなど、地域の取りまとめ役も担っている。
- 集落全体で進めるコミュニティ林業にもメンバーが世話役として取り組んでおり、継続中。
 - 3 年間 (H29～R1) で、間伐 42ha、森林作業道 11,000m、搬出材積 4,000m³の施業を実施

《自伐型林業の取り組み》

- コミュニティ林業を契機に森林所有者の山への関心が高まり、H29 年度から林研グループに参加したのをきっかけに、自伐型林業に取り組む。
 - 当初はポータブルウインチと軽トラで運搬したが、C 材しか扱うことができなかつたため、R1 年度に林内作業車を導入して A 材～C 材まで全ての材の伐採・搬出を行っている。
 - R1 年度実績 面積:4.2ha 搬出材積: A 材 36m³ B 材 7m³ C 材 383m³
- R2 年度には、重機操作の講習も受け、バックホーを購入することを決定し、活動の広がり求めて一般社団法人化した。
- 今後、作業の困難なトラックへの丸太積込みと市場等までの運搬を森林組合に依頼することで、自伐型林業の輪を広げていくことを検討中。

《里山林の整備》

- 里山再生のために H15 年に始まった「郷の森・里楽の会」のボランティアによる市民参加の森づくり活動を R1 年から安養寺薪割り倶楽部が中心となり継承推進している。
- 生物多様性保全と共存しながら市民が気楽に入れる里山を再現し、スニーカーでも散策でき、バードウォッチング、山菜採りやきのこ狩り、薪づくりができる里山を目指す。
- 将来は近くの施設と連携して自然体験型修学旅行や里山インバウンドの目玉になるのではな
いかと期待している。